

故辻岡克彦教授を偲んで

植木 宏明

川崎医科大学前学長



辻岡克彦先生は、川崎医科大学生理学教授、学長補佐、図書館長、川崎医学会担当、コンソーシアム岡山担当、生理機能研究センター長など多くの役職を担当されながら、教育、研究、大学運営、学会活動を通して、大学、学会、社会に広く深くご貢献され、活躍されてきました。咽頭部癌のため大阪の病院に入院しておられましたが、2008年7月21日、60歳でご逝去されました。残された者にとっては真に残念でなりません。ここに謹んで哀悼の想いの中、故辻岡先生の在りし日を偲び、ご冥福を祈りつつ、ご報告させていただきます。

ご葬儀が2008年7月25日、先生を偲ぶ会が2008年10月25日に開催され、多くの教職員、友人、学生達が参列しました。その後、月日の経過と共に、在りし日の先生に対する熱い想いや感謝の念はいよいよ深まり、先生の残された足跡の大きさ、重さを多くの人々が心に留めております。

辻岡克彦先生は大阪のお生まれであり、昭和47年(1972年)に大阪大学医学部を優秀なご成績でご卒業された後、阪大第一内科学教室に入局され、内科医として診療、教育、研究活動に従事されました。昭和56年3月から約1年間、Albert Einstein College of Medicine(New York)に留学され、その心臓血管研究所

(E.H.Sonnenblick 主任教授)の助教授(Visiting Assistant Professor)として活躍されておりましたが、当時の川崎医大の梶谷文彦教授からの要請で昭和58年4月に請われて川崎医科大学ME学〔医用工学〕講師として着任されました。ここで、循環生理学を中心に研究、教育に貢献されました。研究では光ファイバー型レザードブラー血流計を開発されたり、心筋の微小循環動態の計測などに従事されていましたが、先生は何事にも大変論理的であったとの評判です。やがて先生はここで、助教授に昇任、さらに平成7年6月から生理学教授として教育、研究、大学運営などに活躍されました。

その後、川崎医療短期大学、医療福祉大学での兼務業務も遂行され、医科大学ではさらに医用生物センター長、生理機能センター長、図書館長としての職務も果たされてきました。また、平成17年から医科大学の学長補佐として大いに貢献され、さらに大学内では川崎医学会の担当、産官学連携事業、吉備創生カレッジの学内での運用にも従事されました。また専門の学会活動としては、循環生理学方面で動脈硬化の成因を求めて、NOや活性酸素の研究、心機能面ではアクチン、ミオシンの分子動態などのご研究で素晴らしい業績を挙げ、深く医学領域に貢献されております。生理学教室では、専門である循環以外の分野の生理学、さらに学問全般、そして時には雑談にまで、職階を問わず旺盛な好奇心をもって話の輪に加わり、その飾らない人柄や学習意欲に教室員の信頼を集めていました。

別刷請求先
植木宏明
〒701-0192 倉敷市松島577
川崎医科大学現代医学教育博物館

電話：086 (462) 1111
Eメール：hueki@med.kawasaki-m.ac.jp

また、先生はご家庭にあってはよき夫、よき父親として信頼され、家庭人としても豊かに恵まれた環境を築いてこられました

先生はまさに、教養ある学者であり、研究者であり、よき指導者であり、教師であり、家庭人であり、周囲の多くの人々から敬愛されておりました。先生が多方面で深く関わり、川崎医科大学の発展に貢献されたことは、先生の天賦の才能によることも当然でしょうが、最愛の奥様、ご家族の皆様の強い支えがあつてのことであり、これらは全て天の采配と申す他はございません。すでに先生は天国で安らかに休まれ、ご家族の皆様をはじめ、残された私共をも励まされ、温かく見守ってくださることと信じ、一同、心から先生のご冥福を祈りつつ、温かく偲ばせていただきたいと思ひます。先生は、私共教職員、友人、学生達の心の中に永遠に生き続けられることであらうと願ひます。辻岡克彦先生のご冥福を、多くの教職員、学生達と共に、心からお祈り申し上げます。

